



プリ ン セスのゆび

高田由紀子



「あーっ、やだなー」

部屋のベッドに顔をうずめると、本音が出た。

明日、水谷希ちゃん^{のそみ}がうちに来る。

希ちゃんは、私と同じ小学校で同じ五年生の女の子。でも同じクラスになったことは一度もない。希ちゃんが去年、転校してきたからじゃない。希ちゃんはダウン症で、私のクラスの隣にある特別支援学級にも組の生徒だからだ。

月曜日、うちのママは「今週の土曜日に希ちゃんとママを家に招待したから、彩香^{あやか}もおもてなししてね」といきなり告げてきた。うちのママと希ちゃんのママは、高校のクラスメイトだったらしい。春の授業参観で再会し、それからよくメールしたりランチしたりするようになったのは知ってたけど……。

「希ちゃん、学校の友達の家へ遊びに行ったこと、ほとんどないんだって。だから……ね、彩香」

ママが何を言いたいのかなんとなくわかったので「やだ」という言葉はしかたなく飲み込んだ。

希ちゃんのママと仲良くなつてから、うちのママはよく希ちゃんが学校で困っていないか気にしている。

アホな男子の中には色が白くてぼっちょりしている希ちゃんのことを「リアルベイマックス！」とか陰で言ってるヤツもいるけど、女子は言わない。クラスの女子同士では「ウザイ」とか「ブスが調子のるな」とか平気でお互いの陰口を言うのに、希ちゃんへの陰口は聞いたことがない。きっとそれはサベツにつながるってみんなわかっているからなんだと思う。